



神苑の決意

本号の内容

【主張】史上初の米朝首脳会談の実現を歓迎する―安倍総理はこれまでの対北朝鮮外交を総括せよ―(木川智)：1 / 【連載】『倭姫命世記』を読み解く⑮「一書に曰はく」と伊勢神道書(柳凜)：4 / 活動報告：6 / 【記録沖縄戦】④軍民・日米それぞれの視点から(沖縄戦史研究会「棒兵隊」)：12 / 【談話室】ETV特集「基地で働き 基地と闘う沖縄 上原康助の苦悩」(高井七海)：19 / お知らせ・編集後記：20

1 部 1000 円
(別途送料 160 円)

史上初の米朝首脳会談の実現を歓迎する

―安倍総理はこれまでの対北朝鮮外交を総括せよ―

神苑の決意 主筆 木川 智

【主張】 六月二二日午前二〇時(日本時間)、シンガポール・セントーサ島の「カペラ・ホテル」において、アメリカ・トランプ大統領と北朝鮮金委員長が対面、歴史的な米朝首脳会談が開催された。

両首脳は挨拶の後、しばらく二人きりで会談を行い、その後に外務大臣などが加わった拡大合やワーキング・ランチなどが開かれ、両首脳が合意文書に署名した後、トランプ大統領の記者会見が行われた。そして両首脳は当日中にシンガポールを出発し、無事帰国した。

昭和二五年(一九五〇)の朝鮮戦争以来、紆余曲折あったとはいえ、米国と北朝鮮は長らく敵対関係にあった。平成八年(一九九四)の北朝鮮の核危機においては、当時のクリントン大統領が北朝鮮へのミサイル攻撃を真剣に検討するなど切迫した事態ともなった。現在も朝鮮戦争はあくまで「休戦」であり、戦争は終わっていない。つまり両国は戦争状態にある。

核・ミサイル開発など軍備増強と様々な軍事的挑発、そして大韓航空機爆破事件などの危険な国家

犯罪を繰り返した金日成主席・金正日委員長の死去後、北朝鮮の政権を掌握した金正恩委員長も核開発を強行し、ミサイル発射実験を繰り返した。こうした北朝鮮の軍備増強・軍事的挑発に抗するかたちで、トランプ大統領は空母打撃群を朝鮮半島近海に派遣し、さらに戦略爆撃機を朝鮮半島上空で飛行させるなどして、昨年には米朝が一触即発の状態となった。日本でも安倍総理は北朝鮮危機を煽り立て、「国難突破」を大義名分とした解散総選挙を行い、地上イージスなど米国製兵器を大量購入した他、国連で金